

CITATION: Brown S, Small R, Argus B, Davis PG, Krastev A. Early postnatal discharge from hospital for healthy mothers and term infants *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 2. Art. No.: CD002958. DOI: 10.1002/14651858.CD002958.
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group.

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 30 November 2008
Clib issue No.: N/U: 2009 Issue 2; Update

アブストラクト

背景: 出産後の入院期間は、過去30年間で劇的に短縮された。入院期間の短縮が有害か有益かに関する議論は進行中である。

目的: 本レビューの目的は、健康な母親と正期産児における早期退院方針の安全性、影響および有効性を、母子の健康および福祉、産後ケアに対する満足度、総保健医療費並びに家族に及ぶ広範な影響に関して検討することであった。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group Trials Register(2008年12月)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(コクラン・ライブラリ2008年、第1号)、MEDLINE(1966~2007年12月)、CINAHL(1982~2007年12月)および論文の文献一覧を検索した。

選択基準: 試験が実施された環境で、健康な母親と2500g以上の正期産児の早期退院を標準的ケアと比較したランダム化試験。

データ収集と分析: 少なくとも2名のレビュー著者が別々に試験の質を評価し、データを抽出した。

主な結果: 同定された試験は10件であった(女性4489例対象)。「早期退院」の定義や、介入群と対照群の妊産婦に提供された分娩前準備および退院後の助産師による訪問ケアの程度にはかなりバラツキがあった。

妊婦を登録、ランダム化した試験は6件、産婦をランダム化した試験が4件あった。ランダム化後の除外例は多かった。割りつけた治療のノンコンプライアンスは頻発していた。

これらのアウトカムに関するデータを報告した8試験では、児または母親の再入院に統計的有意差は認められなかった。5試験では、母親のうつ病のアウトカムに関して有意差はないか、または早期退院に有利な結果が示されたが、十分な妥当性確認済みの標準的手段が用いられた試験は3件のみであった。8試験の結果により、早期退院群と標準的ケアを受けた対照群の母乳哺育率に有意差はないことが示された。

レビューアの結論: 複数の試験をプールしても、児および妊産婦死亡率や再入院といった稀なアウトカムの増加を検出する検出力が十分ではない。

健康な母親と正期産児の早期産後退院の方針は、退院後に助産師による自宅訪問を少なくとも1回行う方針と組み合わせれば、母乳哺育または母親のうつ病に有害な作用を及ぼさないとと思われる。

共同介入の採用について検討するためのプロセス評価を盛り込み、アウトカム評価への標準化アプローチを用いた、早期退院プログラムに関する、適切にデザインされた大規模な試験が必要である。

平易な要約(Plain language summary)

健康な母親と正期産児の早期産後退院

女性の産後入院期間は、過去30年間に数多くの国々で劇的に短くなりました。本試験レビューでは、早期産後退院の方針と試験実施時点での標準的な産後入院期間を比較しました。

健康な母親と正期産児の早期産後退院は、母乳哺育や母親のうつ病に有害な影響を及ぼさないと考えられます。ただし、試験の質は概ね低いものでした。早期退院が乳児死亡率などの稀なイベントに及ぼす影響を検討するには、試験の参加者が依然として少な過ぎます。今後さらなる研究が必要です。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年 1月 8日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。